

平和・人権、自治と共生をめざす草の根ジャーナリズム



編集・発行：市民じゃ～なる社
発行人：長内経男
〒330-0061さいたま市浦和区常盤3-18-20-803
Tel:048-834-1232 Fax:048-833-6861
E-mail: shimin@jca.apc.org
定期購読：3000円 (12号分送料込)
郵便振込：00150-2-144707



小高まゆみ

徹底した情報公開
市民参加
活動報告

ブログ 市政・県政 見てある記

http://mkodaka.blog.105fc2.com/ E-mail:kodaka@jca.apc.org

携帯：090-1210-0504 ●「小高まゆみと歩む会」 郵便振込：00190-4-429727

再度の立候補に小高まゆみさん意向表明
「議員特権廃止をめざす」

4月10日投票の埼玉県議選への立候補の意向表明の記者会見が1月20日県政記者クラブで行なわれた後、弊紙「市民じゃ～なる」事務所

小高さんは、前回2007年の埼玉県議選にも立候補していますね。小高 はい、前回の県議選では、告示日が近くなっても現職の自民党議員のみの立候補で、私の育った桜区を無投票にしてはいけないという思いが

政治主張した責任を痛感

今回の立候補表明の動機を聞かせてください。小高 この4年間で一番大きな出来事は、日本を疲弊させた自民党から民主党へ09年に「政権交代」したことです。しかし、

民主党政権は、自民党の官僚主導の政治に戻り、あれだけ期待を集めた政権公約「マニフェスト」を裏切り、国民に根本的な政治不信を与えています。翻って埼玉県議選です。前回選挙の時、議員特権



県議選出馬表明
小高真由美氏(南8区)
NPO役員
議員の小高真由美氏(46)

「市民じゃ～なる」を編集・発行するNPO団体の事務局長を務める傍ら、議員特権の廃止などを求める市民活動を展開している。前回の県議選

プレッシャーを掛け続けた
この間、議会改革を求める活動はしてこなかったのですか。

小高 いいえ、この3年10ヶ月の間、埼玉県議会には請願を出し続けてきました。議員以外で一番県議会に係わってきたんじゃないかと思えます。特に政務調査費の問題については、私の提出した請願が議題に上らなかつた議会は一度もありません。2007年6月議会に提出した請願「県政調査費の議員一人ひとりの使途が、県民に明確にわかるようにしてほしい」

自公民他の談合政治が続く

「議会あり方研究会」とは何ですか。小高 私の請願に対応するため、県議会は政務調査費について「議会あり方研究会」(以降「あり方研」)を作ったんです。でもこの会は任意の会で、

議会の正式な機関ではありません。ですから、県民には開催日時も知らせず、傍聴もできず、議論内容も非公開。一種の密室談合政治ですね。この

から排除された議員は自分にも「決定」が及ぼされるのに、何の関与もできませんでした。こんな酷い決め方をした議会は全国どの都道府県議会にもありません。

政務調査費は受取りません

県議ならば、どんなことを実現したいですか。小高 私たちの国では国民主権が憲法で謳われていますが、実際に国を動かしているのは政治家や高級官僚ら一部の権力者たちです。だから国民の望んでいる政治や政策が一向に実行されません。私の政治活動の目標は単純で、本当の国民主権の達成です。プロの議員や役人に「何でもおまかせ」ではなく、できるだけ大勢の住民が身近な自治体の意思決定に関与できる

よう、「徹底した情報公開と市民参加」の仕組み作りをしたいと思えます。主権者のこうした体験のもありません。このように重要事項を一部議員だけで決めるというところに、埼玉県議会の非民主的な体質がよく表れています。
広がり蓄積こそが、より良い政治を実現していく基盤です。そこを模索しながら一步一步進めていきたいと思っています。しかし、現状を考えると、市民感覚を備えたよりましな議員選びと議会改革「議員」「改革」が優先されるべきと考え、まず、議員特権廃止に挑戦します。県議の報酬は年間1500万円以上です。この引き下げも行われるべきですし、それに加えて支払われている年間600万円の政務調査費は議員活動の上で全く必要ありません。私は政務調査費は一切受け取らずに活動するつもりです。

イベント案内

2・5岩上安身さん講演会

「民営」の政府広報「翼賛マンス」を撃つ
独立系ジャーナリズムの可能性
2月5日(土) 18時30分開演 埼玉会館7B
主催：市民じゃ～なる 入場千円

無駄・無謀なハツ場ダム建設 利水・治水に役立たず その上「石灰・ヒ素・地滑り」問題山積

09年9月の政権交代時、ハツ場ダムは建設中止と言われていたが、10年11月には馬淵国交大臣(当時)の発言から、建設は再開されるのではないかと言われています。しかし、ハツ場ダムって本当に必要でしょうか。実は、ハツ場ダムは建設してはいけないダムなのです。



石灰中和物のヘド口の浚渫作業船 (品木ダム)

工場から大量に流して中和させています。年間10億円をかけて、毎日60トンもの石灰を流しています。ハツ場ダムのために半永久的に石灰を投入し続けることになるのです。究極の環境汚染であり、税金の

政府がハツ場ダム建設中止を打ち出すと、上田知事、埼玉県議会で多数を占める建設推進議員たちの大反発が始まりました。09年9月議会から、議会の一般質問では、毎回、自民、公明、刷新の会と民主党・無所属の会

提出し建設推進派議員に對抗してきました。ハツ場ダム推進の県議たちは、治水(水害対策)利水(水の利用)に絶対に必要と言いますが、ハツ場ダムは治水効果も小さいし、水余りの今、利水にも必要ありません。しかし、私たちが反対する理由はそれだけではないのです。ハツ場ダムはとんでもない問題を数多く抱えています。

石灰の投入が永久に必要?

ハツ場ダムの建設予定地の吾妻川の水はコンクリートを溶かすほどの強酸性。このままではダム建設はできないので、アルカリ性の石灰を上流の

工場から大量に流して中和させています。年間10億円をかけて、毎日60トンもの石灰を流しています。ハツ場ダムのために半永久的に石灰を投入し続けることになるのです。究極の環境汚染であり、税金の

ヒ素問題の秘密?

無駄遣いです。流された石灰の生成物を溜めるため、品木ダムが建設され、生成物と土砂をすくいだし、脱水・圧縮し処分場に運んでいます。処分場もあと数年で満杯になる予定。ところが、その堆積物には上

な問題が指摘されているのに本当に建設するのでしようか。これらの問題をとり上げて埼玉県議会に提出した請願は自民党、民主党・無所属の会、公明党、刷新の会と無所属議員2名によって不採択にされ、建設推進の決議などが上げられているのです。建設を進めれば進めるほど問題は大きくなっ

あまりにも少ない女性議員

埼玉県 男女平等指数 全国最下位

埼玉県議会(議運)を傍聴しに行くと、委員の18名の議員はすべて男、十数人の職員もすべて男、女性は傍聴している私だけ、ということが時々あります。現在89人の県議の内、女性5名。議運の委員に女性を選ばれる確率が低いのです。それが分かっていても議会の運営を決める重要な委員会に女性

な問題が指摘されているのに本当に建設するのでしようか。これらの問題をとり上げて埼玉県議会に提出した請願は自民党、民主党・無所属の会、公明党、刷新の会と無所属議員2名によって不採択にされ、建設推進の決議などが上げられているのです。建設を進めれば進めるほど問題は大きくなっ

復活を目論む「買春疑惑」議員

07年の埼玉県議選で落選した「買春疑惑」議員たちが今年4月の選挙で再び睨みを狙っています。この「買春疑惑」の問題は、03年12月、当時の埼玉県議6人(自民党5人無所属1人)が海外視察中に女性と遊んでいる様子が日本テレビで全国放映されたことが発端です。急遽、県内の女性議員と市民が中心となり「買春疑惑議員の辞職を求める署名実行委員会」を結成し、辞職を求める

活動をしました。しかし、6人の県議は辞職するどころか、議長など重要なポストに歴任するありさまでした。そこで私たちは議員たちの地元中心に延べ25万枚ものチラシを撒き、6人中4人を落選させました。

その議員たちが復活するとすると、私たちも複雑な思いです。最低でもあの事件に対する反省が見られるかどうか。今後とも彼らを厳しくチェックしていくつもりです。

午前零時

一昨年の「政権交代」の時は、政治への期待を大きく膨らませてくれました。しかし、菅政権になってからは完全に新自由主義路線の自民党政権下の政治構造にもどっています。マスコミによる世論誘導の中、菅総理や岡田幹事長のあの執拗な小沢議員叩きは、自らも既得権益者の仲間に加わるための「踏み絵」的行為なのでしょ